

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 「おおきなかぶげきじょう」をひらこう（教材名「おおきなかぶ」）

2 単元の目標

◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知識及び技能（1）ク〕

◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等C（1）イ〕

○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

〔思考力、判断力、表現力等C（1）エ〕

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書し、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((1)ク)	・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	・進んで登場人物の行動を想像し、今までの学習を生かして、音読や動作化をしながら表現しようとしている。

4 単元について

(1) 主となる言語活動と扱う教材について

主となる言語活動：声に出して読んだり場面の様子を想像したりすることを通して、音読劇をする。

本単元では、「声に出して読んだり場面の様子を想像したりすることを通して、音読劇をする。」という言語活動を設定している。この活動は、学習指導要領語の〔知識及び技能（1）ク〕「まとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。」及び〔思考力、判断力、表現力等C（1）イ〕「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。」の資質・能力の育成を目指すため、「C読むこと」における言語活動例「読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」を受けて設定している。音読劇では、登場人物の行動や様子を想像し、それに合った動きを考える。動作を伴うことでさらに読み方を工夫したり、話のおもしろさや声に出して読むことの楽しさを味わったりできるようにしたい。動作化をすることは、児童が楽しんで行う手立てでもある。しかし動作化だけに集中すると、音読への意

識が薄れてしまう。音読を通して、登場人物の行動や様子を想像する力を身に付けつつ、物語の楽しさを感じられるようにするために、音読の習得をめあてにする時間と、その音読を踏まえて音読劇をする時間とで分ける単元構成とした。単元の途中で、読みに視点を置いた時間を充分に取ったうえで、グループでの発表と「いいねタイム」を行うことにより、さらなる力の向上を図りたい。

本単元では、児童は音読劇をするために繰り返し練習することになるだろう。練習を通して、単元の始めには読めなかったものが句読点に気を付けて正しく読めるようになったり、工夫して読めるようになったりすると考えられる。音読をしながら、物語の場面の様子を考えたり、登場人物の行動を想像したりすることで、読むことへの苦手意識をなくし、物語を読むことが好きな児童を増やしたい。

「おおきなかぶ」は、ロシア民話の一つである。おじいさんが種をまき、大きく育ててなかなか抜けないかぶを、人や動物が次々に加わり力を合わせて抜こうとする話である。この物語の特徴の一つ目に、「うんとこしょ、どっこいしょ。」の会話文や「〇〇が△△をひっぱって」「かぶはぬけません。」などの繰り返しのあるリズムカルな物語ということがある。児童にとって親しみながら読むことができ、つい口ずさんでしまうような言葉がある。また、繰り返しの部分では、単純な同じ繰り返しに加えて、言葉が微妙に変化している。児童は、その違いに気付くことで楽しみながら音読を工夫することができるだろう。二つ目の特徴に、次々と人物が登場するということがある。かぶを引っ張る人数は、増えているにもかかわらず、なかなか抜けないかぶが、いちばん小さく力の弱いねずみが登場し、加わることで、かぶが抜けるという点におもしろさを感じられるだろう。本単元では、登場人物が出てきた順番にも着目し、その理由についても触れることで、より物語のおもしろさに気付くきっかけにしたい。三つ目に、文章として、主語と述語の関係が明確で、「誰が何をしたのか」を捉えやすいので、物語の展開を予想しやすくなっている。児童は、「けれども」「それでも」「やっぱり」「まだまだ」「なかなか」という表現からその後、「かぶはぬけません。」と続くことを予想することができるだろう。人数が増えても抜けないかぶについても、より大きなものを想像し、場面や登場人物の様子をより具体的に想像することにつながると考える。本単元では、登場人物の行動から、登場人物が言っていそうなことを考えたり、動作化したりすることで、話の大体を捉えやすいようにしていきたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

「声を出して読んだり場面の様子を想像したりすることを通して、音読劇をする。」という言語活動を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する力を身に付けさせたい。音読は、言葉を見つめ、その響きを楽しむために有効な手立てであると考え。特に、入門期の時期に、たくさんの言葉に触れ、そのおもしろさに気付くことは、今後の国語への学習意欲にもつながっていくだろう。だからこそ、リズムのある繰り返しを多く含む「おおきなかぶ」は、音読を楽しむのによい教材といえる。また、読むだけではなく、動作化を取り入れることで言葉への理解を深め、さらに物語を楽しむ手立てとしていきたい。

単元の構成として、単元の終末に行う「おおきなかぶげきじょう」に向けて、そのために内容を把握し、よりよい読み方を考え、その様子や言葉に合った動作を考えるとしている。「おおきなかぶげきじょう」を、隣のクラスと見せ合うために、学習を積み重ねていくという流れは、児童にとって目

的意識や見通しをもって学習に取り組むことができると考える。学習を行うときに、目的を確認することで、児童の意欲を継続できるような働きかけをしていきたい。

本単元では、5～6人のグループで音読劇を行う。グループの中で、物語を四つの場面に分け読む箇所を分ける。物語の全文を読むことで、繰り返しの楽しさやリズムカルな文章を楽しむことができるだろう。また、役割を決めることで「うんとこしょ、どっこいしょ」のところで、徐々に人数が増えていく楽しさも味わえるようにする。さらに、グループで行う意図は、二つある。一つ目は、友達と協力して一つの劇を作っていくことで、困ったときの助けや新しい考えに出会う機会になると考えるからである。二つ目に、一人で発表をすることに抵抗のある児童が、安心して取り組むことができる環境づくりのためである。学級では、皆の前で声を出すことを苦手としている児童も何名かいる。そのような児童も、一人ではなく二人で言ったり、動作に取り組んだりするなど、グループで活動することで、多様な参加の仕方ができると考える。グループについては、普段の学校生活や学習態度を鑑み、編成する。また、読む箇所は、物語を四つに分け、それをグループ内で話し合っって読む箇所を決めることとする。

本時では、グループ同士の見合いの場を設定する。身に付けさせたい力である、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することは、音読している児童本人では分かりにくい部分がある。そこで、「いいねタイム」として違うグループの友達に、よかったところを伝えてもらう。また、そのときに、よかったところが具体的に伝わるように、聞き手が発表者の台本にシールを貼ることとする。そうすることで、自分が工夫して読んで、その様子が相手に伝わったことが、視覚的に実感できると考える。それらを通して、自分の成長、音読する力の習得を自覚あるものとし、今後の国語学習への意欲へとつなげてきたい。

5 単元指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「おおきなかぶ」の読み聞かせを聞き、「おおきなかぶげきじょう」をひらくという学習のゴールを確認する。 ○題名という言葉を知る。 ○ゴールに向けての見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせには、大型絵本を使用し、「おおきなかぶ」のイメージが付きやすいようにする。 ○音読劇を隣のクラスと見せ合うことを示し、目的意識をもって取り組めるようにする。 	[主体的に取り組む態度] 行動・発言 ・学習のゴールを知り、進んで音読を楽しもうとしている。

第二次	2	<p>○全文を読み、内容の大体を捉える。</p> <p>○登場人物の増えていく順番についてなぜこの順番なのかを中心に考える。</p>	<p>○挿絵を見ながらところどころ立ち止まり、登場人物の表情や行動などに、着目できるようにする。</p> <p>○イメージが付きやすいように、挿絵を使用し、視覚的に分かるようにする。</p>	<p>[思考・判断・表現]</p> <p>発言・ノート</p> <p>・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。</p>
	3	<p>○種をまいているときや、「おじいさん」の行動を具体的に想像して、動作化する。</p>	<p>○「おじいさん」の発言や、たねをまいている挿絵に着目するよう声をかけ、「おじいさん」のかぶに対する願いを想像できるようにする。</p> <p>○想像したことを動作化し、音読劇につながるようにする。</p>	<p>[思考・判断・表現]</p> <p>発言・ノート</p> <p>・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。</p>
	4	<p>○かぶを引っ張っている登場人物の様子を想像する。</p> <p>○「けれども」「それでも」「とうとう」などの言葉に着目して読む。</p> <p>○「うんとこしょ、どっこいしょ」の読み方について、全部同じ読み方でよいのか、どのように読むとよいのかを中心に考える。</p>	<p>○繰り返して出てくる言葉には、青色の線、変化している言葉（「けれども」「それでも」など）には、赤色の線を引き、違いが分かるようにする。</p> <p>○「うんとこしょ、どっこいしょ」の近くに、かぶを引っ張っている人数を丸で示し、どんどん増えていることを、視覚的に理解できるようにする。</p>	<p>[思考・判断・表現]</p> <p>発言・ノート</p> <p>・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。</p>
時間 課外	役割を相談して決める。			

第三次	5	○グループで役を決め、登場人物になりきって音読する。	○今までの学習を生かして、音読をするように助言する。 ○「大きく」「小さく」「ゆっくり」「はやく」など、読むときに工夫したいことを台本に書き込むように助言する。 ○グループの中でよいところ、直した方がよいところを伝え合い、よりよいものにできるようにする。	〔知識・技能〕 音読 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。
	6 (本時)	○違うグループと音読を見せ合い、よいところを伝え合う。	○グループで見合うときの視点を確認し、そこに着目して見るように伝える。 ○よいところを見つける相手は、自分と場面を音読している児童とし、自分の音読にも生かせるようにする。 ○見つけたよいところを共有することで、次時への意欲へとつなげる。	〔知識・技能〕 音読 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。
	7	○言葉にあった動きを付け加えて、グループで練習をする。	○言葉に合った動きを考えるように伝える。 ○動きだけになり、音読がおろそかにならないように声をかける。 ○表情も様子を伝える手立てになることを伝える。	〔思考・判断・表現〕 行動・発言 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。

	8	<p>○「おおきなかぶげきじょう」をひらく。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>○前時でよかったところやもっとこうしたいと思ったところを生かすように声をかける。</p> <p>○学習を通して、できるようになったことや楽しかったことなどを振り返り、今後の学習につなげられるようにする。</p>	<p>〔主体的に取り組む態度〕</p> <p>行動・発言</p> <p>・積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習を生かして、音読劇をしようとしている。</p>
--	---	--	--	--

6 本時の指導（6/8時間）

(1) 本時の目標

○語のまとまりや言葉の響きなどについて気を付けて音読することができる。

〔知識及び技能（1）ク〕

(2) 本時の展開

時間	学習活動と内容	教師の指導や支援の手立て（○）・評価（◇）
5分	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>○単元のゴールを確認し、今までの学習も音読に生かすように助言する。</p>
<p>おはなしにあったよみかたをかながえておんどくをしよう。</p>		
5分	<p>3 グループで見合うときの視点を確認する。</p> <p>①（「、」や「。」に気を付けて）正しく読む。</p> <p>②（言葉の響きに気を付けて）リズムよく読む。</p> <p>③（様子を想像して）様子に合う読み方をする。</p> <p>④いっしょうけんめい読む。</p>	<p>○音読する側も、見る側も同じ視点を共有することで、混乱のないようにする。</p> <p>○四つの視点を提示するが、中でも①と②を意識できるとよいことを助言する。</p> <p>○声を出すことを苦手としている児童も取り組めるように④の視点を示し、全員一つは○が付けられるようにする。</p>
20分	<p>4 グループで見合い、よいところを伝え合う。</p> <p>〈見合うときの流れ〉</p> <p>①一つ目のグループが音読劇を行う。</p> <p>②いいねタイム</p> <p>③二つ目のグループが音読劇を行う。</p> <p>④いいねタイム</p>	<p>○視点を意識した読み方ができている児童は、賞賛し、他の児童が目を向けられるようにする。</p> <p>○自分の台本に書き込んでいることを意識しながら読むように声をかける。</p>

	<p>〈いいねタイムの例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すらすら読めていてよかったよ。 ・リズムよく読めていてよかったよ。 ・おじいさんが頑張っている様子が伝わったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見る方の児童には、チェックシートを渡す。自分と同じ場面を読んでいる児童をペアとし、視点に合わせてチェックするように助言する。 ○視点は、板書をしていつでも見られるようにする。 ○よいところが具体的に伝わるように、シールを貼るように声をかける。 ○1回目のいいねタイムが終わった時点で、一度全体で、よいところを伝えられている児童を紹介し、次のいいねタイムに生かせるようにする。 ○見せ合いが終わったグループは、友達から言われたことを意識しながら、練習をするように促す。 ○重なり合って声が聞こえなくならないように場所については、場所の確保をする。 ○音読を苦手とする児童は、友達と言ったり、指で読もうとしているところをなぞったりするように助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇語のまとまりや言葉の響きなどについて気を付けて音読することができる。 [知識及び技能(1)ク]</p> </div>
5分	<p>5 上手に音読していた人のよいところを全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんがすらすら読めていて良かったです。 ・〇〇さんが、本当にひっばっているように読んでいてすごいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どのようなところがよかったのかを聞くことで、ゴールである「おおきなかぶげきじょう」での音読劇に生かせるようにする。 ○共有するときにも、視点に合わせて確認することで、言葉のまとまりや響きをより意識できるようにする。
5分	<p>6 本時の活動で学んだことを生かして自分の読んだ場面を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○友達のよかったところや、自分がよいと言われたことを意識して読むように助言する。
5分	<p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○次回、「おおきなかぶげきじょう」を開くことを確認し、見通しをもてるようにする。